

三三

丙
交付
第一
九一
六
號

立案 昭和九年一月六日
決裁 昭和 年 月 日

爵位課長

宗秩寮總裁

宮内事務官

故陸軍中佐坂尾駿外五名位階追陞ノ件

昭和十八年十二月廿九日裁可各月各日達
臺帳記入月 日官報報告済
昭和十九年一月七日

裏面白紙

377



故陸軍中佐坂尾駿外五名位階追陞ノ件
右謹テ裁可ヲ仰ク

昭和十八年十二月二十八日

内閣總理大臣東條英機



内

閣

人達第一四三號

案起
昭和六年十二月五日

裁可
昭和六年十二月五日

施行
昭和
年
月
日

内閣總理大臣

内閣書記官長

内閣書記官

故陸軍中佐坂尾駿外五名位階追陞
ノ件

辭令案

例文

内閣

裏面白紙

379

叙從五位

昭和六年七月廿二日死亡

故陸軍中佐正六位坂尾

駿

大正十年十月廿五日

陸軍歩兵少尉 以來在職十年以上

叙從五位

昭和六年九月廿日死亡

故陸軍中佐正六位鷹林宇一

昭和二年二月廿八日

陸軍歩兵少尉 以來在職十年以上

叙正六位

昭和六年九月廿日死亡

故陸軍少佐從六位守屋嘉善

昭和八年二月廿八日

陸軍歩兵少尉 以來在職十年以上

叙從五位

昭和六年十月八日死亡

故陸軍中佐正六位新谷重利

大正十年十月廿五日

陸軍歩兵少尉 以來在職十年以上

陸軍

右文武官叙位進階内則第四條ノ二ニ依リ

謹テ奏ス

昭和十八年十二月

日

陸軍大臣東條英機



Yim

敘從五位 昭和十八年 八月 六日死亡 故海軍中佐 正六位 柳 瀨 善 雄

昭和三年 十月 一日任海軍少尉以來在職十年以上

敘從五位 昭和十八年十一月十八日死亡 故海軍中佐 正六位 大 塚 范

昭和四年十一月三十日任海軍少尉以來在職十年以上

右文武官敘位進階内則第四條ノ二ニ依リ

謹テ 奏ス

昭和十八年十二月二十四日

海軍

海軍大臣 嶋 田 繁太郎



裏面白紙

三三〇

叙位ノ件進達

昭和十八年十二月 日

陸軍大臣 東條英機



内閣總理大臣 東條英機 殿

故 陸軍中佐 坂尾 駿外三名 位階追陞ノ件

右 進 達 ス

追テ坂尾 駿外三名ハ何レモ南方々面ニ於テ

戦死ヲ遂ゲタル 處當時通信連絡ノ不備ニ基因シ之カ確

認ニ日子ヲ要シ文武官叙位進階内則所定ノ取扱期限ヲ経過

シタル次第ナルモ特ニ昭和十二年八月二十日附閣議第三九七號通

牒ノ主旨ヲ適用セラレ生前ノ日附ヲ以テ發令方取計相成度

陸 軍

官報不登載

官報
不登載

海秘入第一五七一號

昭和十八年十二月二十四日

海軍大臣 嶋田 繁太郎



内閣總理大臣 東條 英機 殿

故海軍中佐柳瀬善雄以下二名ハ多年軍職ニ在リテ克ク其ノ任務ヲ盡シ功積顯著ノ者ニ候處柳瀬海軍中佐ハソロモソ諸島方面ニ於テ作戰從事中八月六日大塚海軍中佐ハニ

海軍

ユ一ヘブライズ諸島方面ニ於テ作戰從事中十一月十八日孰モ戦死候ニ付テハ特ニ位一級被追陞度別紙上奏進達ス

(終)

12.24
付受

裏面白紙

二一號

一故陸軍中佐正六位坂尾駿外三名

右特旨ヲ以テ叙位相成候條此旨及傳達候位記竝辭令ハ追テ可及回送候也

昭和十九年一月八日

宗秩寮總裁子爵武者小路公共

陸軍大臣

叙位奉令番号

兩位方一二二〇号(辭令一月七日)

坂尾中佐	叙日昭和十八年七月二十二日
鷹林中佐	叙日昭和十八年九月十八日
新谷中佐	叙日昭和十八年十月八日
守屋少佐	叙日昭和十八年九月三十日

以上

宮内省

二號紙

裏面白紙

二二號

一故海軍中佐正六位柳瀬善雄外一名

右特旨ヲ以テ敍位相成候條此旨及傳達候位記竝
辭令ハ追テ可及回送候也

昭和十九年一月八日

宗秩寮總裁子爵武者小路公共

海軍大臣

能任奉令由子

海和人方一五七一号(辭令一月七日)

柳瀬中佐(新昭和十八年八月六日)

大塚中佐(新昭和十八年十月十日)

以上

宮内省

丙發第一〇二號

一故陸軍中佐從五位坂尾駿外三名
右位記立辭令及回送候條交付方御取計有之度候也

昭和十九年一月十九日

宗秩寮總裁子爵武者小路公共

陸軍大臣東條英機殿

陸佐方一二二〇号

宮内省

裏面白紙

二號界紙

386

裏面白紙

丙發第一〇三號

一故海軍中佐從五位柳瀬善雄外一名

右位記立辭令及回送候條交付方御取計有之度候也

昭和十九年一月十四日

宗秩寮總裁子爵武者小路公共

海軍大臣嶋田繁太郎殿

海務人方一五七一号

官内省